

第4回福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会

1 会議名	第4回福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会
2 開催日時	平成28年9月26日(月) 14時00分～15時40分
3 開催場所	福井市企業局庁舎3階会議室
4 出席者	委員10名(南保勝、高島正信、岡崎賢一、稲垣学、東山清和 寺尾明泰、竹内良行、伊藤健治、田村洋子、新道レイ子) 下水道部職員(下水道部長、次長、下水管理課長 他) (敬称略)
5 会議の内容および進行記録	【議事】 「下水道事業経営戦略(素案)」について

【質疑要旨】

市	「下水道事業経営戦略(素案)」について説明。
委員長	感想・ご意見をお願いします。
委員	使用料の減少は、人口減少が大きいと思うが、一方で整備延長を広げていく計画のなかで、全体の減に占める人口減と普及拡大による増の影響を明らかにする方が分かりやすいのではないか。
市	普及拡大による増、節水機器の普及による減、人口減少の伴う減が関係していてもどこがどのようにとは表現しにくい。
委員	整備延長に見合う収入があってもいいのではないか？
市	近年の使用料は、節水機器の普及による減、人口減少に伴う減の分を普及拡大による増が取り戻すような状態で横ばいか若干減少傾向にある。
委員長	今後は普及拡大事業を行っても、人口的には残り5%程度なので、投資効率の維持ができなくなっている。そのようなことを素案に落とし込むといいのではないか。
委員	これまで合併処理浄化槽で対応していた家庭は、すぐに下水道に転換してくれるのか？
市	法律で速やかに接続するように規定されている。
委員	投資効果の低い地区においては、浄化槽でいいということにはならないのか？

市	これまでも十分議論されてきており、川西地区においては住民の意向により浄化槽整備地区としてきた。また、そのほかの地区については、平成 25 年あたりまでに公共下水道を整備していくという住民からの結論を得ている。
委員	素案の中では、専門的な言葉の表現や経営戦略の位置づけなど分かりにくい。また、現状と課題の関係性や課題が明確になっていない。指標の目標設定をすることで、将来のチェック機能が働くようになる。
市	それぞれの細かいところは、今後記載していきたい。指標についても進捗管理できるものを記載したい。
委員長	現状、課題、方策を見えるようにする方がいいのではないか。PDCAサイクルを回す上で、5年、10年のタイミングで検証する必要がある。
市	経営戦略は、10年計画なので、5年くらいのところで中間評価して修正していく。
委員	節水型機器を導入にしたことによって使用料が増加することになると、生活者にとっては痛手になるのではないか。
委員	使用水量が減っても汚濁負荷が減るわけではないので、その点を説明していく必要がある。
市	節水機器を使用して減少した分は、使用料が上がっても上り幅は小さく経済的効果はあると思われる。
委員	節水型機器の導入は、将来の下水道施設の改築更新の投資経費が下がることで、将来負担が軽減されるメリットはある。ただ、すぐに料金に反映するわけではない。
委員長	市民向けにそれぞれの語句について分かりやすくしたほうがいい。
市	注釈や用語解説等適宜入れていきたい。
委員	類似都市とは？
市	総務省が示している、計画区域人口 10 万人以上、計画面積 1ha あたり 50 人未満が類似都市としている。
委員	過去 10 年間の投資額が約 473 億円、今後 10 年間で 557 億円 (+11.8%) となっているが、値上げ理由は投資額の増によるものと考えているが、料金値上げの率が市民は納得できるのだろうか？
市	赤字になる経営計画を作ることはできない。

委員	値上げに対する市民の抵抗は大きいので、説明の方法を考えないといけない。
委員	下水管がきている以上接続の必要があるのではないか。
市	接続促進などの呼びかけを行い、未接続解消を目指している。
委員	環境の面からは、合併浄化槽は汚水処理の合理的な手法の一つだが、都市機能構築の上で公共的に整備する下水道の役割は道路と同じようなものである。
市	高齢者世帯など無理強いはできない。水洗化率は95%くらいまできている。
委員	水洗化率は、福井市は非常に高い水準にある。 高齢者や生活弱者に対する対策が必要になってきている。
委員長	もう一度会議を行うこととする。 この経営戦略は、市民の方が納得するような形で公表したい。 日程は後日案内する。